えんがわ

2019 年 8 月 1 日発行
出雲市古志町 344
社会福祉法人ことぶき福祉会
『笑庵ことぶき』
発行責任者：施設長　加田　誠
TEL:(0853)25-7701
FAX:(0853)25-7702

あるお年寄りさんと話をしていた時のこと、「あんた達は今何が一番の楽しみだ？」と質問をいただきました。私は「子供の成長ですかね。」と答えたところ、「私も昔はそげだったかもしれん。でも今は子供も孫も大きくなって手が離れて、そのぶん年を取ったらできることが限られて、家で何かすると、すぐに危ないからやめてと言われてね。でも今は、ここへ来るのが一番の楽しみだに。みんな笑顔で迎えてくれるし、知った顔も増えて話しもなあ(なる)だけん。ここは笑いの集まる場所だから。」と話されました。

ここを利用されている皆さんはかつて、田畑を守り、家や家族を守り、形は違えどそれぞれに生きがいや役割を持って誇り高い人生を送ってこられた方々です。年を重ね、身体が自分の思うように動かなくなっていったり、病気によって出来ない事が増えていく中でも、最後まで皆さんが笑顔でいきいきと暮らしていけることが私達の願いです。思い思いに力を発揮できたり、なじみの人達との会話を楽しむことで、笑庵が皆さんにとって生きがいを持ち続ける、または取り戻していけるような場所であれば何よりと思います。

笑顔でいられる心地の良い居場所、人間関係というのは、お年寄りさん同士であっても、職員とお年寄りさんであっても世話をする側とされる側という目線でなく、人と人としての対等で自然な付き合いが出来てこそのものだと思います。なじみの関係の大切さを私達が一方的に謳うのではなく、お年寄りさんからの声で改めて実感することができ嬉しく思います。「ここへ来るのが一番の楽しみ」の言葉を励みに、これからも努力していきたいと思います。

毎日お年寄りさんと接していると、それぞれ一人一人の性格やその方の好きなこと、そうでないことなどいろいろな事が分かってきます。

グループホームに歌の好きな S さんがおられます。認知症により言葉が出にくく最初はどう接して良いのか分からず悩むことがありましたが、ある日童謡や叙情歌を口ずさんでみました。すると一緒に唄われ、私はとても心が温かくなりました。そして今度は何を歌ってみましょうか、夏の歌はどんな歌がありますかねと問いかけながら歌を通じて交流が段々と出来るようになりました。娘さんにその時の様子をお伝えすると、「母にとっては歌が会話なんですよ。」と話されました。

ことぶき福祉会のケア方針の一つ、「過去の記憶を大切にし、知的レベルの低下を防ぐ」の中に「生活してこられた記憶を聞く機会をたくさん持つこと」とあります。入職してこの間、利用者さんだけでなくご家族の方とも話をする機会もでき、昔のことやその方がどんな仕事をされていたか、どこに住んでおられたかなど聞かせて頂きました。S さんと歌を通じて会話が出来た時の喜びを胸に、これからも頑張りたいと思います。

八月一日、古志まつりの花火を笑庵の縁側から今年も眺めることができました。家族さんが駆けつけ一緒に楽しまれる方、花火が打ちあがるたびに「おお～、すごいね～」「きれいだねえ」と感嘆の声を上げる方、静かにその光景を目に焼き付けられる方などそれぞれに夏の風物詩を満喫されました。猛暑により日中の屋外の活動が出来にくい日が続いていますが、季節を感じながら楽しみのある日々を送っていければと思います。